



夢の話

昨日、ここ数日学校で顔を見ていなかったTさんがやってきて、「先生、この前インフルになったと思ったら、先週末、また風邪になって寝てたんですよ。もうちっとも勉強できなかった～」とお嘆きなので、「いやいや今のうちに風邪になっておいてよかったじゃないか。今週末にでも病気になったら、国公立の本番が受けられなかったかもしれないのだから、それを考えると超ラッキーだよ」と慰めておいた。しかし、センター試験と違って、大学の個別試験には「追試」はないから、冗談ではなく、今週末に体調を崩すと元も子もなくなるので、ここ数日の体調管理は大切である。まずは「マスク」を着用すること。そして、マスクを外す際には、かならず耳にかける紐の部分を持つ。顔に当てている部分には、呼吸にともなって菌がいっぱいいつているわけだから、そこをなるべく触らないようにするわけだ。そして、何とんでも「手洗い」である。何かに触ったら、外出先から戻ったら、とにかくしっかり手を洗おう。これがどうも一番効果があるらしい。一方、「うがい」は効果が証明されていないらしいのだが、それでもやらないよりはズッとイイと思われるので、15秒を2回繰り返そう。

前にも書いたが、マスクは呼吸による細菌感染（拡散）を防ぐよりも、無意識に手で顔を触ったりした時に、その手から感染することを防ぐ上で大きな役割を果たしているのだそう。逆にいえば、手が感染経路になっているわけで、「手洗い」が大切だということがよく分かる。しっかり励行しよう。

ところで、Tさんと話していたら、風邪薬を飲んだせいか、変な夢を見たと言っていた

が、そういえば、風邪薬を飲んで寝ると変な夢を見ませんか？ 私も風邪薬を飲んで寝ると、長くてストーリー性のある夢をみるような気がするので、Tさんの意見には賛成である。ちなみに、Tさんは、家がブロック（レゴみたいなヤツ）に変わってしまって「どうしよう～」と思う夢だったそう。聞いている分にはなかなか楽しそうだが…笑。

私がよく見る夢の中に、時間に遅れそうになっている（すでに遅れている）にもかかわらず、建物の中でどこにいるのか分からなくなってしまい、なかなか目的の場所にたどり着けない、というものがあって、これを見て目を覚ました時は、結構精神的に疲れた感じになったりする。やれやれ。

で、その夢に登場する建物はほぼ決まっていて、私が日比谷に来る前の前に勤めていた都立H高校の校舎（創立百周年で新築なったばかりの立派な校舎だった）と、本郷の法文2号館（文学部が入っているレンガ造りの古い校舎）が合体したようなもので、ある空間は白鷺でありながら、エレベータを降りると法文2号館だったりするという、迷路状の構造になっている。たまに、そこに自分自身が通っていた中学校の体育館が接続していたりすることもあって、なかなかのラビリンスで、おもしろいといえば面白いのかも。

しかし、それは言ってみれば「遅刻を恐れる夢＝約束を違えることを恐れる夢」ということになるのだろうか。あるいは、ラビリンスには何か別の意味があるのだろうか。こんな夢を見る自分の深層心理はどうなっているのだろうか、なかなか興味深くもある。